

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	22人	算数	22人	理科	22人
------	----	-----	----	-----	----	-----

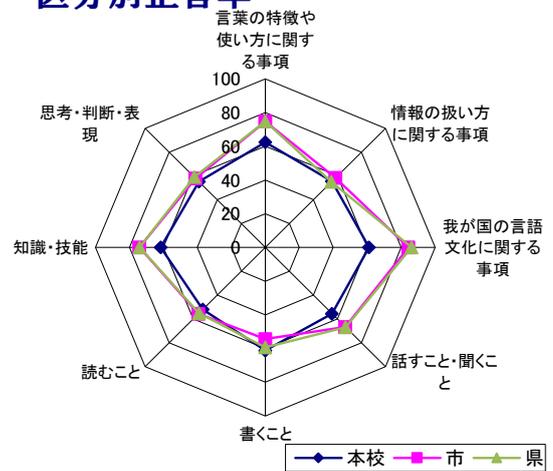
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	62.4	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	55.6	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	61.1	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	55.6	66.7	66.9
	書くこと	61.1	54.3	59.3
	読むこと	52.1	55.6	55.2
観点	知識・技能	61.6	74.1	74.0
	思考・判断・表現	55.2	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

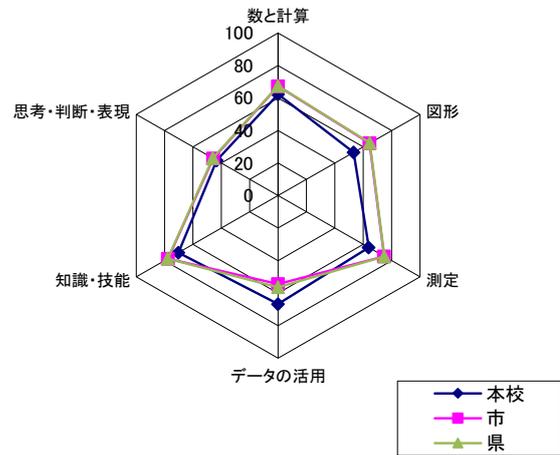
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○ローマ字の読みは、県の平均正答率と同程度であった。</p> <p>●領域の平均正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>●漢字の設問は、県の平均正答率を下回っている設問が多い。特に書き取りに課題が見られた。熟語や送り仮名の理解が不十分である。</p> <p>●主語と述語の設問は、県の平均正答率を下回っている。文中の主語と述語の関係を抑えることに課題が見られる。</p>	<p>・漢字の習得を図るために、計画的に単元ごとのミニテストを行う。</p> <p>・自主学习等で、学年の漢字だけでなく、下の学年の漢字の復習を熟語や文作りなどと工夫して取り組ませることで、既習の漢字の定着を図る。</p> <p>・「宮っ子学習ステップアップシート」や城山ぐんぐん式プリントを活用して言葉や文法に触れる機会を増やす。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○領域の正答率は、県の平均正答率を若干上回っている。国語辞典の使い方が身に付きつつあるといえる。</p>	<p>・授業の中で辞書や1人1台端末を活用する機会を、意図的に増やす。</p> <p>・調べ学習等では、必要に応じて1人1台端末や書籍を選択させ、情報を収集する力を伸ばす。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●領域の正答率は、県の平均を下回っている。漢字のへんやつくりについての理解が十分でない。</p>	<p>・新出漢字の学習のときには、筆順を意識させるだけでなく、部首や漢字の意味についても丁寧に指導していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○話し手の伝えたい中心を抑える設問の正答率が県の平均正答率より高い。</p> <p>●参加者の発言を基に、考えをまとめて書くような記述式の設問に課題が見られた。</p>	<p>・各教科や学級活動では、必要に応じた話し合い活動を意図的に取り入れる。</p> <p>・城山東小「考えるときのヒント」を活用し、自分の意見や考えを明らかにした上で、話し合いに参加できるように指導していく。</p> <p>・話し手の意図を落とさずに聞き取れるように、適切なメモの取り方を指導していく。</p>
書くこと	<p>○指定された長さで文章を書いたり、自分の考えとそれを支える理由を明白にして書いたりすることは、県の平均正答率とほぼ同程度であった。</p> <p>●段落の役割を理解し、2段落構成で文章を書く設問は課題が見られた。</p>	<p>・各教科との連携を図り、文章にまとめる学習活動を計画的に取り入れていく。</p> <p>・作文学習のときに、既習の作文のきまりを復習していく。</p>
読むこと	<p>○物語文の読み取りは県の平均正答率を上回る設問が見られた。登場人物の気持ちを読み取る設問は、県の正答率より高い。</p> <p>●説明文の読み取りは県の正答率を下回る設問が多かった。特に記述を基に段落分けしたり、内容を抑えたりすることに課題が見られた。</p>	<p>・読書活動では、物語文などに偏ることなくはいろいろなジャンルの本を選ばせ、読書の幅を広げていくことで、説明文の読み取りに慣れさせていく。</p> <p>・説明文の読み取りでは、文章の構成に着目させ、各段落の要旨を抑えさせるなど、筆者の意図を丁寧に読み取らせていくことで、読解力を伸ばしていく。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.3	67.3	67.4
	図形	53.3	64.5	64.7
	測定	63.9	74.7	74.9
	データの活用	66.7	54.4	56.4
観点	知識・技能	70.3	77.6	77.8
	思考・判断・表現	43.3	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

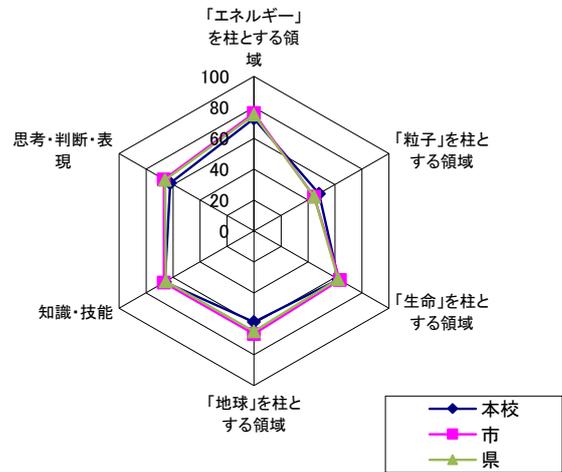
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○文章問題を解くために立式する問題では、県の平均を上回った。</p> <p>○同分母の真分数のたし算の計算では、全員が正答を導き出すことができた。分数の計算について、理解しているといえる。</p> <p>●問題の場面を図に表す問題では、県平均を下回り、数直線の読み取りや数直線で表すことに課題が見られた。</p> <p>●大きな数の表し方や構成に対する理解に課題が見られた。</p>	<p>・朝の学習や宿題において、意図的に、かけ算の筆算やわり算の筆算などを復習する機会を設定し、定着を図っていく。</p> <p>・授業の中で絵や図、数直線などで表しながら立式させていくことで数の関係を確認させるとともに、加減乗除のどの計算方法で解決することが正しいのかを理解させていく。</p>
図形	<p>○二等辺三角形の作図では、正答率が9割を超えていて、県平均を上回った。コンパスの扱い方や、二等辺三角形の特徴について理解しているといえる。</p> <p>●円の中心やコンパスを使って作図をする問題など、円の性質に対する理解に課題がみられた。</p>	<p>・作図の仕方については、コンパスを扱う意味や円の性質など様々な条件に合わせて作図の仕方を考えていけるよう指導していく。</p> <p>・コンパスの扱い方について応用的に円以外の作図についても触れ、二等辺三角形や円の特徴について理解を深める。</p>
測定	<p>○地図から道のりを求める問題では正答率が県平均を上回っているため、道のりの求め方について理解しているといえる。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取り重さを答える問題では、重さを表す単位への理解や重さへの感覚について課題がみられる。</p>	<p>・身近な物の量感については具体物を用いて授業を行うと共に、日常生活の中において適宜確認しながら定着を図る。</p> <p>・はかりの目盛りの読み取りについて復習するとともに、重さの単位(g, kg, tなど)を朝の学習などを活用して復習し、定着を図る。</p>
データの活用	<p>○棒グラフの問題においては、県平均を上回っているため、1メモリが表す数や棒グラフの読み取りについて理解することができている。</p>	<p>・社会や理科等の他教科でもグラフから読み取る学習を取り入れ、関連を図りながら定着を図る。データの読み方についても同様に行い定着を図っていく。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.7	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	48.2	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	62.6	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	58.9	66.6	64.9
観点	知識・技能	66.0	66.8	65.4
	思考・判断・表現	62.0	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○「音のせいしつ」に関する設問では、大きい音になればなるほどふるえ方が大きくなることを理解できている。</p> <p>●「風やゴムのはたらき」に関しての設問では、車が動いた距離から送風機の風の強さを推測することへの理解が低かった。</p> <p>●「じしゃくのせいしつ」に関しての設問では、鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法の理解が十分でない。</p>	<p>・実験のまとめでは、異なる条件から結果を選択したり、逆に結果から条件の違いを推測したり、実験の因果関係を明確にして、条件と実験結果を関連付け理解できるように、授業の工夫を行う。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○「物の重さ」に関しての設問では、正答率が県の平均を上回っており、形を変えても重さは変わらないことを理解できていた。</p> <p>●姿勢を変えて測った体重が変化するかどうかを実験の結果をもとに記述する設問では、課題がみられた。</p>	<p>・実験結果から考察をしっかりと行うとともに、身近な現象についても説明ができるような思考力や表現力を身に付けさせる機会を増やしていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○植物の体のつくりの共通点や、アゲハチョウが卵をうみつける場所についての設問では、正答率が8割と県の平均より高く、よく理解できていた。</p> <p>●観察記録として必要な項目や、昆虫の体のつくりの特徴の理解では、課題がみられた。</p>	<p>・身の回りの生き物を観察して、繰り返し記録をとる。また、昆虫の体を比べて共通点を見付け、昆虫とそれ以外の違いが理解できるように授業を工夫する。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○観察の記録から、かげと太陽の位置の関係を読み取る設問では、全児童が正答し、よく理解できていた。</p> <p>●かげの記録から、かげの動くようすを推測する設問では、課題がみられた。</p>	<p>・実験結果の共有をクラス全体で行い、大切な内容については、教科書の記述などを参照しながら確認し、理解の定着をはかる。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの意欲について「勉強をされていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強をされていて「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある』については、県の肯定的回答を上回っている。このことから主体的に学習へ向かう力が育まれてきていると言える。

○学校での様子については「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業を集中して受けている」、「友達と話し合うとき最後まで聞くことができる」、「友達同士で話し合っただけでクラスの決まり等を決めている」の肯定的回答が県を上回っていて、互いの意見を尊重しながら学級の一員として学校生活を送っていることが分かる。

○自分自身や家族のことについては、「自分は勉強が良くできるほうだと思う」、「自分には良いところがある」、「自分は家族の大切な一員であると思う」の回答については、県の肯定的回答より低いことから、学校生活や家庭の中で、ほめて伸ばしたり、自信をつけさせたりしてさらに自己肯定感を高めていきたい。

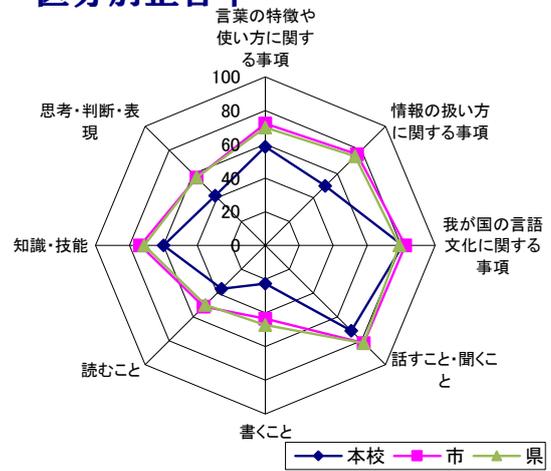
●家庭での学習について、「家で学校の授業の予習復習をしている」、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」、「家で、学校の授業の復習をしている」については、県の平均を大きく下回った。家庭学習の進め方を示したり、内容について個々に合うものを提示したりして、習慣化を図りたい。

●家族のことについて「家の人と将来のことについて話すことがある」、「家の人と学習のことについて話をしている」は県の肯定的回答と比べると下回っている。総合的な学習の時間等に、職業について1人1台端末や書籍で調べ学習をしたり、授業内容について、便りや面談で発信したりして、将来や学習についての意識を高めていきたい。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	58.6	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	50.0	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	80.8	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	71.6	81.9	82.0
	書くこと	22.7	43.5	47.2
	読むこと	36.4	51.4	49.8
観点	知識・技能	59.9	73.6	71.3
	思考・判断・表現	41.8	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

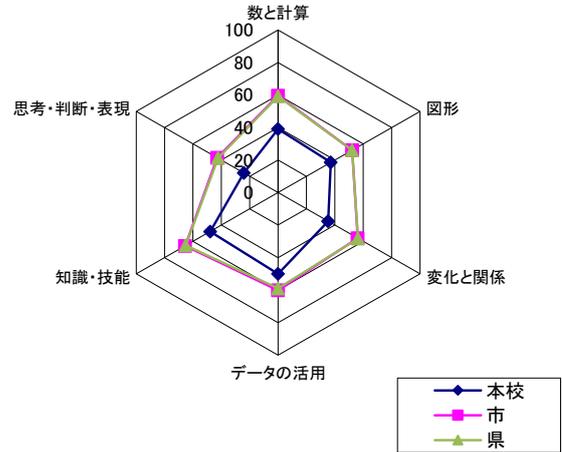
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みに関しては、県の平均正答率を下回るものの約8割から9割の正答率であった。 ●漢字の書きに関しては、正答率が約1割から5割であり、「旗」に正答率は県の平均正答率を大きく下回っている。 ●修飾語の使い方については、県の平均正答率を下回っている。特に連用修飾語の使い方の正答率が低く、課題が見られる。	・漢字ドリルやAドリルを活用し、繰り返し練習に取り組みさせることで定着を図る。 ・宿題や自主学習で学年の漢字だけでなく、下の学年の漢字練習に取り組みさせることで定着を図っていく。 ・城山ぐんぐん式を活用して、言葉や文法の復習に力を入れ、基礎的な言語力を伸ばしていく。
情報の扱い方に関する事項	●領域の正答率が5割で、県の平均正答率を下回っている。 ●漢字辞典の使い方の理解に課題が見られる。	・漢字辞典の使い方に関しては、授業などで活用する機会を意図的に取り入れ、使い方の定着を図っていく。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の正答率が約8割で、県の平均正答率より高い。ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いることができている。	・自主学習などで積極的に取り入れていき、ことわざや故事成語に触れる機会を増やし、それらを自分の言語活動に取り入れ、表現の幅を広げさせていく。
話すこと・聞くこと	○話の中心を聞き取ったり、自分の考えを理由を挙げながら話す設問に対しては約8割の正答率であった。 ●領域の平均正答率は、県の平均正答率を下回っているものの約7割であった。 ●話し手の工夫を聞き取ったり、司会として意見をまとめることに課題が見られた。また、記述式の設問に無解答が見られた。	・自分の思いや考えを伸び伸びと表現できるように、ペア学習やグループ学習など、話し合いの形態の工夫を図っていく。 ・城山東小の学習の約束を再確認させ、聞くときには話し手の意図を考えて聞く習慣を付けさせる。また、聞く力を伸ばすことが自分の学力の向上につながることに気付かせることで、学習意欲の向上を図る。
書くこと	●領域の平均正答率は約2割と、県の平均正答率を下回っている。 ●段落の役割の理解が不十分で、2段落で文章を書くことに課題が見られた。 ●内容を明確にして文章を書いたり、事実と自分の意見を結び付けて書くことに課題が見られる。 ●記述式の設問に対して苦手意識が強く、無解答が多く見られた。	・授業の中で、分かりやすい文章構成について理解を深め、自分の表現に生かせるようにする。 ・作文の書き方のきまりを再確認することで、正しい書き方を身に付けさせる。 ・短作文や日記指導を通して、書くことへの苦手意識の軽減を図る。

読むこと	<p>○文章の内容を説明した文の読み取りでは、県の平均と同等程度であった。</p> <p>●物語文の正答率が、県の平均正答率とほぼ同程度であるが約5割を下回る設問が多い。特に文章を読んで感じたことや考えたことを共有する設問の正答率が約2割で、県の平均正答率を下回っている。</p> <p>●説明文の正答率も5割に届かず、ほとんどの設問で、県の平均正答率を約2割から3割下回っている。特に情報と情報の関係を理解し要約する設問の正答率が県の平均正答率と比べて下回っている。</p>	<p>・読書や読み聞かせの機会を増やし、多様な分野の書籍に触れる機会を増やすことで、苦手意識のある説明文への関心を高める。</p> <p>・授業の中で内容を読み解くために必要な文言に線を引くなど、可視化することで読解力を伸ばす。</p>
------	--	--

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	39.1	59.7	59.2
	図形	37.1	52.1	52.1
	変化と関係	35.2	56.1	56.3
	データの活用	50.0	60.1	58.9
観点	知識・技能	47.9	65.5	65.1
	思考・判断・表現	24.1	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

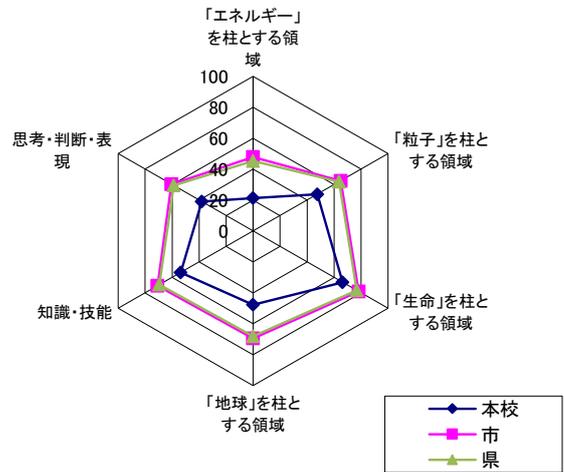
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○大きい数の読み方の問題については正答率が県の平均正答率よりも高く、漢数字への変換について理解している。</p> <p>●分数の問題については正答率が県の平均正答率よりも低くなっている。整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較、同分母分数の計算処理に課題が見られる。</p>	<p>・学習の系統性を意識し、新しい単元の学習の前に、その学習につながる既習の学習の振り返りをする時間をとることで、これから学習することの見通しをもつことができるようにする。</p> <p>・分数のたし算、ひき算、かけ算、わり算と学習を進めていく過程で、その都度、それまでに学習してきた計算を織り交ぜて、様々なパターンの計算に取り組ませる。</p> <p>・自分がどのような考えで立式し、答えを求めたのかを図や数直線等を用いて説明する活動を多く取り入れる。</p>
図形	<p>○身近なものの面積と単位の問題では、正答率が県の平均正答率よりも高く、よく理解できているといえる。</p> <p>●複雑な図形の面積を求める問題では正答率が県の平均正答率よりも低くなっている。複合図形の面積の求め方に課題が見られる。</p>	<p>・面積や体積の求め方を説明するときは、辺の長さや角の大きさに着目し、キーワードを使って分かりやすく説明できるようにする。</p> <p>・身の回りの生活の中での図形と結び付けながら各図形の特徴を理解した上で、作図をする機会を増やす。</p> <p>・朝の学習(ぐんぐんタイム)で、分度器の使い方や各図形の作図の仕方を再度確認し、複雑な図形の問題にも取り組めるような時間を設ける。</p>
変化と関係	<p>○数量の関係について図を選ぶ問題では、正答率が県の平均正答率とほぼ同じだった。数量の関係をとらえることができているといえる。</p> <p>●数量の関係がもとの大きさの何倍になったかを文章で答える問題では正答率が県の平均正答率よりも低くなっている。例をもとに何倍になったかを説明することに課題が見られる。</p>	<p>・2つの量を比べる時には、なぜその答えになるのかという根拠を明確にして、説明する活動を取り入れ、言語活動を進めていく。</p> <p>・2つの数量の変化の中にある、決まった数や規則性を見付ける活動を多く取り入れる。</p>
データの活用	<p>○折れ線グラフの読み取りの問題では、正答率が県の平均正答率とほぼ同じだった。折れ線グラフから必要なことを読み取ることについて理解できているといえる。</p> <p>●二次元表の読み取りの問題では、正答率が県の平均正答率よりも低くなっている。二次元表の読み方や書き方に課題が見られる。</p>	<p>・算数以外の理科や社会科においても、二次元表に着目し、どのように表にまとめられているのかを意識させる。</p> <p>・グラフや表から必要な情報を収集したり、目的に応じて表やグラフや表を用いて表したり、読み取ったことを根拠を明らかにして説明したりする活動を意図的に取り入れる。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	21.2	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	47.5	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	66.4	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	47.7	69.5	68.1
観点	知識・技能	53.6	70.8	69.5
	思考・判断・表現	38.0	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ●回路を理解し、より明るく光る回路を推測する問題において、県の平均を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実験の予想や実験の時の様子について説明をする場面を設け、結果や考察などにおいて自他の意見の相違点を確認し合うなどの機会を増やしていく。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○実験の予想が正しかった場合に得られる結果を構想する問題において、県の平均を上回った。 ○水の温まり方を理解しているかどうかをみる問題において、県の平均を上回った。 ●水や空気、金属の温度による体積変化を考える問題では、県の平均を下回った。 ●実験の結果と身の回りの生活を結び付けて記述する問題において、県の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●液体が気体に変化する様子に加え、折れ線グラフの変化の様子も加えて説明するなど、条件が増えた場合の実験の様子を説明する力を付けさせるため、既習の学習内容や生活経験をもとに考えたり、解決したりする機会を多く取り入れるよう毎時間の授業を工夫していく。 ●金属の温度による体積変化の理解が深まるよう、実験や生活経験を生かした授業の工夫をしていく。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○季節の変化を動物の様子を関連付けて考える問題において、正答率が8割を超えており県の平均を上回った。 ●サクラの様子がどのように変化しているかを考える問題において、県の平均を下回った。 ●腕を曲げたときの筋肉の様子について理解しているかを問う問題において、県の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な動植物の様子と季節の変化に着目して、調べたり、既習の内容や生活経験を生かして予想や仮説を立てて観察していく機会を作ったりするなど指導の工夫・改善を行っていく。 ●ヒトの体のつくりについての学習では、重いものを持ち上げることなどを例示し、経験を通して理解が深まるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ●月の動き方を理解しているかどうかをみる問題において、県の平均を下回った。 ●土の粒の大きさと水の染み込みやすさの関係を読み取る問題において、県の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●月や星の位置が時間の経過とともにどのように変化するのかを再度確認するなど定着を図っていく。 ●土の粒の大きさによって染み込みやすさに違いがあることを、生活経験を生かして予想や仮説を立てて実験し、理解が深まるよう指導の工夫・改善を行っていく。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○読書については、「一か月に何冊くらい本を読みますか」で、「11冊以上」の回答が県を上回っている。
 ○宿題については、「学校の宿題の量はちょうどいい」、「学習して身に付けたことは、将来に役立つと思う」の肯定的な回答が、県を上回っている。
 ○学校の様子については、「先生は学習のことについて褒めてくれる」、「授業でわからないことがあると先生に聞くことができる」の肯定的回答が、県の平均を上回っている。学校生活で認め励ます機会があり、学習への意欲が高まっている。
 ●家庭での学習については、「家で学校の授業の予習復習をしている」、「家でテストで間違えた問題について勉強している」の回答が、県の肯定的回答を下回っていることから、家庭学習への意識は低い。学校と家庭とが連携、協力し、やる気を高めていけるよう、支援していく。
 ●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」については、県の肯定的な回答を下回っている。自己有用感が低い結果となった。今後は学校行事や学級活動などにおいて自分に自信がもてるような機会を増やしていきたい。
 ●宿題については、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」、「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」については県の平均を下回った。また「学ぶ意欲」の「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」についても県の肯定的回答を下回っている。授業の中で、導入や課題の設定を工夫してやる気を与えらるとともに、粘り強く課題に取り組み、達成感を味わえるよう、内容や量を精選し、支援していく。

宇都宮市立城山東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施。 ・家庭学習での、漢字・計算くり返し練習。 ・朝の学習での、「城山ぐんぐん式」(国語・算数)の実施。 ・朝の学習での、ぐんぐん応援隊の活用。 ・AIドリルの活用。 	<p>○国語の漢字の読みでは、4、5年生ともに正答率が県の平均とほぼ同じである。家庭学習や朝の学習等、繰り返し練習を行った成果といえる。</p> <p>●国語の漢字の書きに関しては、正答率が県の平均を大幅に下回っているものもあり、繰り返し練習を行う必要がある。</p>
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合い活動の日常化(「考えるときのヒント」の掲示物の活用) ・学び合わせるための課題設定や発問の工夫。 ・自分の思考イメージの外化(絵・図、言葉、計算式、ロールプレイ、具体物等)をしてから話し合う、学習過程の工夫。 ・ペアや少人数、グループ、全体等での協働的な学び合い形態の工夫。 ・話し方・聞き方の段階的指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用。 ・本を介しての学び合い学習の実践。 ・条件に沿った文章表現や振り返りの実施。 	<p>○質問紙における「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問では、4、5年生は8割が肯定的回答をしている。「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」では、5年生は県の平均を上回り、9割強だった。</p> <p>○国語の「話すこと・聞くこと」の領域で「伝えたいことの中心を捉えて聞いたりすることができる」では、4年生は、県の平均より大きく上回り、5年生はほぼ同等だった。</p> <p>●話し手や話し方の工夫を捉える質問では、4、5年生ともに県の平均を下回った。充実した話し合い活動ができるよう、繰り返し指導をしていきたい。</p>
読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年20冊の必読書設定及び読書記録カードの活用。 ・家読の推奨(※長期休業中実施) ・読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施。 ・学級担任と学校図書館司書との連携による、本を介した学び合いの授業の実施。 ・朝の学習(月・火は読書) 	<p>○1か月に読む本の冊数は、4・5年生ともに県の割合を上回っている。日頃から本に親しんでいることが分かる。</p>

<p>・実感を伴った作業的・体験的活動の充実</p>	<p>・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的活動の充実。 ・日常生活における身近な物を測ったり、身近な事象に目を向けたりする機会の、意図的な設定。</p>	<p>●算数では、4年生は仕組みや表し方は理解しているが、数直線やはかりの目盛りを読む問題では正答率が県の平均を下回っている。今後も継続して作業的・体験的な学習を充実させ、長さや面積、かさ、重さなど、量の大きさについての感覚を身に付けさせたい。 ●5年生は、「もとの大きさの何倍かを考えて説明することができるかどうかをみる」問題や、「面積の求め方を理解しているかどうか」等、全体的に県の平均を大きく下回っているものが多かった。重点を絞り、身近な物を使って、効果的な復習を行っていく必要がある。</p>
----------------------------	---	---

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>国語の漢字については、次々と進出漢字を学習するため、以前の物を忘れてしまったり、あやふやになってしまっていた。また、算数の計算については、問題によって正答率に大きな差が見られた。学習したそのときには理解できていても、新しい学習に移ったときに忘れてしまったり、新たに出てきた他の計算の仕方と混同してしまったりすることが課題である。 また、国語・算数ともに、問題を解く前に諦めてしまい、無回答のままというのが目立っていた。</p>	<p>復習により、基礎基本の定着を図る学習の充実(国語の漢字、算数の計算に重点を置く。)</p>	<p>・単元の導入時に、これから学習することの見通しをもつことができるようにする。 ・その学習につながる既習学習の復習をする時間を設ける。 ・単元のまとめや朝の学習、家庭学習等で、複数の単元の内容をまとめて復習する時間を設けたり、学習の共通する点と異なる点を整理したりして身に付けられるようにする。</p>